

会 議 録

1 会議名

平成29年度 第4回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成29年度地域活動支援事業について(報告) (公開)
- (2) 自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について (公開)
- (3) 自主的審議事項 住民組織の充実と地域活性化について (公開)

3 開催日時

平成29年9月28日(木) 午後6時30分から午後7時58分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：水澤俊彦（会長）、橋本 勲（副会長）、有坂正一、泉 幸雄、
市橋邦夫、岩澤 弘、植木泰行、笠原完治、小林春男、高橋善昭、
土屋史郎、平原 匡、前川正治
- ・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、榎島係長、小林主事

8 発言の内容

【榎島係長】

- ・秋山委員を除く13名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

【水澤会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：前川委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

—平成29年度地域活動支援事業について(報告)—

【水澤会長】

次第3報告(1)「平成29年度地域活動支援事業について(報告)」に入る。事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により説明。

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

整理No.10の事業の附帯意見に関連し、前回の会議で触れた遊具の補助制度のことについて報告する。上越市社会福祉協議会が、遊具に関する助成を実施していた。赤い羽根募金を財源に、町内会を対象に遊具の設置と修繕の助成をしていたもの。上限額が、設置6万6千円、修繕5万円。平成22年度を最後に廃止された。

大和2丁目が設置する遊具の管理は、今後町内会として維持管理するよう附帯意見により伝えてある。

—自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について—

【水澤会長】

次第4議題(1)「自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について」に入る。

2件の自主的審議事項を同時に進めるのではなく、まず1番目の自主的審議事項「雪を生かした地域づくりの推進について」の審議を全て済ませてから、2番目の自主的審議事項「住民組織の充実と地域活性化について」に入ることを諮り、委員

全員の了承を得る。

8月3日に委員9人が安塚区の雪だるま財団を訪問し、雪室など雪利用の状況を視察研修してきた。

本日は、この視察を振り返る。まず提案者の平原委員に、視察の報告を求める。

【平原委員】

ゆきだるま財団が事務局を構える雪のまちみらい館で、工学博士の伊藤先生から話を伺った。概要は次のとおり。

- ・雪室や利雪には安塚町の時から取り組んで来たが、上越市に合併してからも市の施策で取り組んでいる。
- ・最近では、中山間地でも雪室を使えるように、農業用倉庫を雪室に改造する事例を増やしている。
- ・雪だるま財団がプロデュースした県内の雪室は、県内に7か所、安塚、柿崎、湯沢町、阿賀町、南魚沼市、魚沼市、十日町市にある。市内は安塚、柿崎にあるが、妙高市にはないので、雪だるま財団としては増やしたい。
- ・特に、米の貯蔵庫として雪室を利用する例が県内でも増えつつあり、上越市でもどんどん導入したらよい。
- ・ほかにも南魚沼市にある酒造会社の雪室にも、関わってきた。
- ・雪自体を貯蔵、貯雪しておき、7月に海老名市へ運び、雪を使ったイベントで雪の広場を作り子どもたちに楽しんでもらった。このように、雪を運んだという事例もある。
- ・同じように上越の雪を、2020年のオリンピック会場に運び、会場を冷やそうという非常に大きなプロジェクトを進めている。

次に、元の福祉施設建物に隣接する、倉庫を改造した雪室を見学した。国や市の補助金を活用して改造したもので、非常に広く、雪のほかお酒やみそ、米などが保管しており、なかなか面白い室内だった。

その日は30℃を超える暑い日だったが、室内は3℃で、半袖では寒いという空間を体感してきた。

高田の桜を剪定（せんてい）する時に切り落とした枝を、その中で低温保存した

雪室桜の実験もしているようだった。外に出すときちゃんと咲くことが実証されている、その桜の保管もしていた。

倉庫の前、屋外に浅い穴を掘りそこに雪を入れ、その上をウッドチップで覆うと雪が保管できる。8月の非常に暑い時期まで、よく雪が残っている状況だった。そのような貯雪場を作ると、そこから雪室に雪を供給できるので良いということで、実際に現場を見せてもらった。

最後に雪冷房体験ということで、ゆきだるま物産館にある大きな雪冷房施設を視察した。

ゆきだるま財団は雪に関しいろいろな研究をしており、雪の利活用の今後について聞かせてもらったり、現在取り組んでいることを実際に見せてもらったりして、非常に勉強になった。

和田地区でも、貯雪や雪室にトライできれば農業のニーズもかなり見込めるのではないかと思う。また夏に雪を使ったイベントができるので、雪が降っている時はじゃまだと思うが、少し考えを変えてみて、夏に向けて貯雪し取っておくのもよいかかなと思い帰ってきた。

【水澤会長】

参加した委員に感想などを求める。

【市橋委員】

このようなことができるのだなと、非常に参考になった。

先日テレビで、雪室のことを放映していた。その中で、我々が視察した場所や南魚沼市にある酒造会社の雪室倉庫が紹介されていた。

われわれの所でも、考えればなんとかできるのかなと思った。

8月に上越妙高駅前で行われた雪を使ったイベントには行かなかったが、あの時も雪だるま財団から雪を運んできていると思う。近くの農業倉庫や空き家の倉庫を利用すれば、和田地区でも雪を貯蔵することができるのかなと期待する。そのような気持ちがあったので、非常に良かった。違った目で見ることができてよかった。

【岩澤委員】

素晴らしいと思った。

実際にここで雪を貯蔵しようとしたら、大きな倉庫を利用すればできるし、空いている場所があるのでそこで外に雪を保管することもできるかなとも思う。ただ、平地で立木も何もないので、できるのか心配な面もある。

魚沼地方のワイン工場へ一度見学に行ったことがあり、そこは雪が降ると自然に雪がたまる造りの倉庫だった。造り方としては、そのような倉庫もよいのかなと思った。

ただ心配な点として、この地区も最近雪が少なくなってきており、雪の確保が難しく他の場所から運び込んで貯蔵するような形になるのではと考えている。雪は降ってほしくないが、やはり雪も必要だというところが微妙なところ。

今回このような視察で話を聞き、是非この地区でもしてみたいなという気になった。

【植木委員】

初めて見学したが、貯蔵倉庫の中にあの時期にあれだけの雪がほとんど減らずに貯蔵されていて、雪はかなり持つのだなということを実感し驚いた。

普通、じゃまな雪は早くどかしてという感覚で毎年生活しているのだが、雪を倉庫にためて冷蔵庫代わりに使うということが、それを見学し初めて理解できた。非常に勉強になった。

【小林委員】

8月に、雪が溶けきらずに残っていることに驚いた。

また、低温貯蔵により食品の味が良くなるということに、非常に興味を持った。

雪室は小規模でもできる気がしてきた、一般家庭でもできるかなという感想を持った。

【土屋委員】

非常に立派な施設を見せてもらった。

同じ雪の地域なので、和田区でも同じようなものはできると思うが、収益があがるかどうか。そこがどうだろうかと疑問を感じた。

今後あのような財団を立ち上げるようなことを、地域協議会で議論することなのか分からない。利雪は可能だと思うが、財団の立ち上げはどうだろう。むしろイ

ベントやレクリエーションの方に向けた方がよいのではないかと感じた。

【橋本副会長】

私自身は、実際に雪室を利用している所は、岩の原葡萄園の雪の蔵しか見たことがなかった。

今回、雪を貯蔵する方法として、室内貯蔵だけでなく屋外でも貯蔵できるということを目の当たりに見せてもらった。

本来、雪室なので建物の中に雪を蓄える、その場合は室温を3℃くらいに維持できるという説明だったが、その方法でなくても屋外である程度夏場まで残せることが分かり、私にとっては大変目新しい話だった。

雪室の中で、実際にいろいろな方がお酒やみそなどを蓄えている。その方から直接聞いたわけではないが、長く保存できるかということだけでなく、味はどうなのかというところも本当は聞きたかった。これからも聞く機会はあると思うが。

コーヒーが、特に味が顕著に変わるという話は聞き知っている。実際に飲んでみる機会があればよいと思う。

雪室により周りをにぎやかにしたいなら、最初から大きなお金を使い建物を建てるのではなく、何か他にもう少し知恵を出してはどうかと感じながら帰ってきた。

【水澤会長】

欠席した委員に、資料を読んだり報告や感想を聞いたりした感想を求める。

【有坂委員】

私も橋本副会長と同じく、2週間ほど前に岩の原葡萄園の雪室を見学し、ワインを効率よく冷やしているという話を聞いた。

その雪室を見て、ひとつ気になったことがある。最初に330トンくらいの雪が詰められ、現在4分の1くらい残っていたが、そこには春先に山になっている雪のように黒いアスファルトの削りくずと思われるものが載っていた。直接食品に触れる所ではないが、どのような影響を及ぼすのか懸念している。

【泉委員】

正直よく分からない。確かにそれぞれの効果はあるだろう。

それをこの地域に導入するという議論だとすれば、いろいろな障害が出てくると

思う。ただ、そのように勉強し、雪国における雪のメリットを考えるとということになれば、それなりに効果はあると思う。それぞれの地域や家庭で雪を利用してみようというなら、また一つの方法だと思う。

【笠原委員】

和田地区としてこれを取り上げるということには、ずいぶん議論が必要という印象。安塚の人が資源として活用するというのを、和田地区に当てはめると、これは少し大変だろうと。和田地区と安塚では、雪に対するポテンシャルが全く違う。だからそのような点で、いろいろな面から検討しないと引き受け手が出ない。

また土屋委員が言われたように、事業収益をあげられるのか。冷気を循環させるので、雪があるから電気代は冷蔵庫より安いと言ったらとんでもない。市の補助金を充てた結果、収支バランスが取れるようではどうにもならない。

そのような面でも興味はあるが検討が必要。和田地区として引き受け、事業展開していくには、じっくりと時間をかけないと駄目という気がする。

【高橋委員】

土屋委員や笠原委員が言われるように、かなりの経費がかかると思う。いきなりこの地区に取り入れるとすると、非常に難しい部分がある。

ただ、雪室の取組には本当に興味がある。興味を持つ方はたくさんいると思うので、雪室で熟成した野菜などを利用し、この地域の人たちにより興味を持ってもらうような方向がよいと思う。

【前川委員】

ウッドチップで雪を貯蔵する点に興味を持った。雪を高さ3メートルに積み上げウッドチップをかぶせる方法は、3メートルのまま溶けずに残っていたのか、10メートルのものが3メートルになったのか。

私が南葉高原キャンプ場で働いていた時、夏の祭りで子どもたちに喜んでもらうため、このようなことを2年続けて行った。硬くなった積み上げた何百トンの雪に、最初はブルーシートのみ四方八方かぶせたところ、6月頃にすっかり消えてしまった。翌年は場所を日陰に変えて、安塚から雪専用シートを借りてきて100メートルを幅30メートルくらいかぶせたところ、ひと月くらい余計に持って、8月に少

し残っていた。

ウッドチップをかぶせた場合、8月のイベントや行事に有効か教えてほしい。

【平原委員】

3メートル積み上げたものがだんだん減り、6月か7月には消えてしまうので、消える前に袋詰めして雪室の中に移しておくことでその後2か月くらい持つ。だから夏のイベントまで持つ。

視察で訪れた時も、雪室の中でたくさんの雪が袋に入れられて保存されていた。今度のイベントで使うものだと紹介された。だからやはり持たないで、消えてしまおう。

【水澤会長】

これからは、今後の議論の方向性について意見交換を行う。

これまでの意見は、大きく「雪を楽しむイベント等の取組」と「雪を利用した取組」の二つに分けられる。これを踏まえ、自主的審議の議論の方向性について、意見を求める。

参加した委員も欠席した委員も、雪室や雪に対してはいろいろな思いがあると思う。施設や雪の貯蔵方法などについて分からないこともあると思うが、それらを含め、聞いたり理解したりしながらどのような取組をするかという方向づけができればよいと思う。

【有坂委員】

イベントを開催したいという考えがあるが、このイベントの時期はいつ頃を考えているか。

【水澤会長】

平原委員に意見を求める。

【平原委員】

イベントを開催するという意見は、どこでまとめたものか。

【有坂委員】

資料にイベント開催と書かれている。

【平原委員】

そのような夢はあるが、現実的なところを議論した方がよいと思う。自分は先日、既にイベントを開催した。

【水澤会長】

上越妙高駅西口広場等で開かれたイベントやオクトーバーフェストで、安塚から雪を持ってきて子どもたちに遊び場を提供したり、上越青年会議所が夏に桜を咲かせようと雪室桜に取り組んだりしている。

イベントは商業ベースで考えるものもあるし、地域活性化のためのイベントもある。先日、上越青年会議所が開催したオクトーバーフェストは、これまで10年くらい高田公園で開催していたが、新幹線が開業後の昨年から釜蓋遺跡公園で開催するようになった。高田公園で開催していた時は、高田地区のような地域に限られていたので、より広域にと考え、新幹線を利用して来る方がいるだろうと長野、富山、石川方面へも発信したそうだ。検証結果は分からないが、広域連携という意味でこの場所を選んだと聞いた。私たちが住む和田地区にそのような利用できる施設があり、雪を絡めたイベントができたということだと思う。

イベントは楽しまなくてはいけないだろうし、商業ベースで考えれば収益を上げる必要があるものもあるはず。

私たちがここで議論するのは、笠原委員が言われるように和田区で取り組む場合に、雪に対して非常に難しい部分があるのではないかとということ、また、和田区の皆さんが考える雪と安塚区の皆さんが考える雪では、感覚的に違うということ。

全国的に考えれば雪は一部地域でしか降らないし、雪を利用しようということはなかなかできないと思う。そのような中で、和田区から上越全体に広げて発信するということがあってもよいと思う。

資料にあるように、イベント開催と雪利用ということも見ながら方向づけできればよいと思う。

【平原委員】

イベントを開催したらどうかと書いてあるが、みんなでする必要はない。もう少しフランクに議論してはどうか。

【小林委員】

商業ベースは、今の段階では絶対に無理。

我々自身が何かをすることはできないので、雪室といったものの知識をためこみ、勉強し、和田地区振興協議会といったしっかりした受け皿に提案していくという流れだと思う。ただ、できないものを提案するわけにはいかないので、勉強し、できるものを提案する。

とりあえずは、先日のオクトーバーフェストのような他のイベントに合わせ、雪で遊んでもらうという方法なら比較的簡単にできるのでよいと思う。

また、大規模ではなく小規模で雪を貯蔵し冷やすことができるように工夫し、家庭でもできるような方法を研究し、みなさんから取り組んでもらうようなことを提案していけばと思う。

【水澤会長】

雪利用というテーマで、自主的審議していくもの。

各区地域協議会で自主的審議が進められ、結果を出しているところもある。他の地域協議会の例について、例えば金谷区地域協議会の「黒田小学校区における地域連携施設の設置について」という意見書は自主的審議した結果か、センターに説明を求める。

【佐藤センター長】

本日、他の地域協議会から市へ提出された意見書の写しを配布した。

金谷区の「黒田小学校区における地域連携施設の設置について」は、委員個人からの提案にもとづき自主的審議を開始し、市へ意見書を提出した。

高田区地域協議会からの雁木整備事業に関する意見書も、委員個人からの提案により自主的審議し、制度改善を市へ提案したもの。

金谷区地域協議会からの金谷地区公民館に関する意見書は、委員同士の議論や地域の子育て世代の方との意見交換の中で上がった課題として自主的審議し、公民館設置により子どもの活動の場が広がるという意見書を提出した。

【水澤会長】

他では、意見書を市へ提出している地域協議会もある。和田区として雪について取り上げて、どうするか。

【笠原委員】

雪室で時間をかけて貯蔵した雪中野菜や雪中米は、それだけコストや手間をかけた分、おいしくなったと消費者は実感しているのか。

【平原委員】

高くても売れている。

【笠原委員】

おいしいか。

【平原委員】

おいしい。食べてみてほしい。

【笠原委員】

食べたことはあるか。

【平原委員】

当然、食べた。

【笠原委員】

する価値はあるか。

【平原委員】

糖度がどれくらい高くなるかという研究も進んでいる。付加価値を付けて売る。

【市橋委員】

お米も甘くなるのか。

【平原委員】

お米も甘くなる。

玄米で長期保存をする場合、ある程度湿度がある中で低温貯蔵できるため、雪室が一番良い。玄米で最初にまとめて買う人は、大きな倉庫を欲しがらる。

【水澤会長】

雪室に関しては、いろいろ新聞記事に取り上げられている。コーヒーの香りへの効果など数字で表されていた。一般の消費者はこのような記事を見ているのだろう。実際に味の違いが分かる人がどれだけいるかわからないが。

【平原委員】

いきなり出されたら、違いに気づくか分からない。

【笠原委員】

古米の保存対策ではないのか。

【平原委員】

全く違う。

【水澤会長】

和田区の農家の方が、温度管理をしながら玄米を保存している冷蔵庫とは、ずいぶん違うはず。

【有坂委員】

確かに違う。

冬はそれ以上冷えるので必要ないが、春から11月くらいまでは米専用の冷蔵庫を15度以下に設定しておくとお前の米もさほど味が変わらない。おいしくなるか分からないが、劣化は抑えられ、梅雨を過ぎるところから顕著に現れる。

【笠原委員】

でも新米にはかなわないだろう。

【有坂委員】

そのとおり。新米と比較してしまっっては。

しかし、いかに劣化を抑えるかということ考えた場合は、古米、古々米でもそれなりの単価で売れるということはある。

【笠原委員】

それは、きちんと立証されているか。

【平原委員】

まだ立証されていない食材もあるが、お米やコーヒーなどは、最近研究機関で数字が出ている。

【泉委員】

この和田区地域協議会としてそれをどうするか。それをどこに提案するか。

【笠原委員】

そこまで求めてない。

【泉委員】

そういうものを議論して、他の区では市長へ意見書を提出している。

【水澤会長】

委員が議論したものを、意見書にして市へ提案することも一つ。他の方法でもよい。ただ、どんな方向で行うか。

【笠原委員】

極めて多角的に検討しないと、そこまでいかない。

【小林委員】

雪室の中の商品を買っても、たぶん利益は出ない。市や農協など、例えば市へお願いし建物を作ってもらい、別のところが運営するという感じだと思う。

また、商品も大規模、大量には無理だと思う。その商品は宣伝に使い、他の商品も一緒に売るように、宣伝に利用するのだと思う。

【市橋委員】

雪室は、我々には非常に難しいと思う。

私としては雪を楽しむ方向で、新幹線開業の時に地域で協力して実施したようなかまくらや灯ろうのイベントを年に1回冬、3月くらいに開催する。そのようなものをまず組み立てて、市に協力を求める。例えば資料にあるように、大和倶楽部や和田地区商工会に話を持って行き、地域協議会がこのようなイベントを考え開催したいので、協力をお願いしたいというようにしたらどうか。

今回は、雪を生かすことが一番早いのではないか。雪室を作り野菜を貯蔵するということは、我々の問題ではない。個人資金もないので空想になってしまう気がする。

【水澤会長】

視察研修に行ってきたことから、雪室の話が多く出ている。雪室は、費用対効果からしても私たちが考える部分ではないと思う。商業ベースで考える方が他にいると思う。また、宣伝としてうまく利用し他の商品も売ることも可能だと思う。それらは私たちが考える部分ではないのではないかと思う。

市橋委員が言われたように、和田地区振興協議会が、新幹線開業時に雪灯ろうを

作るイベントを行った。雪がない時に雪を持ってくるのではなく、雪がある時に雪を利用して雪を使った雪国の遊びやイベントをする。地域協議会として、地域の団体や組織にそのようなことを提案するくらいだろうと、自分は考える。

雪室に限らず、雪で何ができるかということを含め意見を求める。

【橋本副会長】

雪室の話が最初から出てしまい、商業ベースでという話になってしまっているが、私は初めから雪室は商業ベースではできないと思う。

雪がある時のイベント、できるなら雪がない時が一番よいが、イベントの中で雪室の中で保管したものを食べてもらうなどどうか。

私の一番の経験は、雪室で保管したじゃがいもの甘み、糖度がまるっきり違ったというもの。じゃがいもが自分の身を守るために、そのようになるということだった。

そのようなイベントを開けばそこに人が集まるので、雪室貯蔵の食材を食べてもらうようなことをフランクに考えればよい。それにより、我々の中にノウハウが蓄積されるだろう。

商業ベースで考えられればよいが、資金が必要。この地域では、これまで雪を利用することは考えたことがなかったので、我々自身を教育することがよい。

雪にちなんだ、人が集まるイベントを考えたらよいと思う。商業ベースにのるか、のらないかと考えていては何もできない。

【植木委員】

実際に、個人住宅で夏の冷房に雪を利用しているケースが何件かあるということだった。それを見てみたい。個人が雪を貯蔵し夏の冷房に生かすことが簡単にできるのなら、その利用者に方法を聞き、和田区の地域の方にその方法をPRするのも、雪利用を進めるのに非常に有効だと思う。

【泉委員】

市のパンフレットを見ると、雪利用のほとんどは中山間地で、平地は一か所だけ。そうだとすると、上越妙高駅前、雪室で野菜を貯蔵できるというPRや、雪室貯蔵食品を販売し、おいしいことをPRするイベントなのだと思う。

また市に働きかけ、釜蓋遺跡公園で「雪で遊ぼう」というイベントを計画する方向で行くのがよいと思う。

【水澤会長】

この地域にいながら、釜蓋遺跡公園を利用することは少ないと思う。せっかくの地域の公園なので、有効に利用できればよい。和田区にあり上越妙高駅前にあるので、いろいろな宣伝、集客ができれば、人が集う憩いの場になる。そこに雪をからめていけば、冬の暗いイメージの中でイベントが開くことができ、よいと思う。

【市橋委員】

冬になれば発掘作業はしていない。広大な公園を利用し運動会をすれば、新幹線に乗って来てくれる人がいるかもしれない。

【水澤会長】

使い道はいろいろある。

【平原委員】

学校教育の場、大和小や和田小の学校給食で、一年に1回か2回くらい、雪室で貯蔵した野菜を使って、味を確かめる取組をすることが重要と考えている。大人ではなく、子どもが食べて味覚で判断することも一つ。

雪下人参がおいしいということは、皆さんは承知している。ねぎも辛みが取れて味が柔らかくなる。それらを学校給食に導入してはどうかという声が出てきている。

【水澤会長】

雪で食品を貯蔵する方法は、昔から取られていた。今、それを子どもたちに伝える意味では、よい考えだろう。

【平原委員】

雪で保存した大根がおいしいことは、皆さん承知されているが、今の子どもたちがそれを知っているかという微妙。それでふろふき大根を作ったらおいしい。そういうところから入っていくことも一つだろう。

【水澤会長】

雪国に暮らしていることから、雪に対する思いなど、そのようなことから必要なのだろう。

【小林委員】

泉委員が言われた釜蓋遺跡公園のイベントは、おもしろいと思う。

釜蓋遺跡には遺跡応援団があり、主に子どもたちを対象に春と秋に釜蓋遺跡まつりを開き、勾玉を作ったり笛を作ったりして一日遊んでもらっている。その人たちに、冬まつりを開いてもらうように提案していくのもよいと思う。

【水澤会長】

釜蓋遺跡応援団でよいか。

【小林委員】

そのとおり。春と秋に祭りを開いている。

【市橋委員】

米を作り、稲刈りもしている。

【小林委員】

そこを受け皿にして、お願いしてもよいだろう。

【水澤会長】

雪を生かした地域づくりのために、和田区で何ができるか。安塚であれば、克雪、雪を資源にするということから、雪の利用へ結びついた。和田区は年々少雪でそれほど雪がないが、上越妙高駅周辺や釜蓋遺跡公園とからめて、魅力発信していければと思う。

商業ベースという点では、雪を上手に利用していけば和田区の施設の役にも立つだろう。

新聞記事によれば、上越妙高駅前の商業施設に入っているお茶専門店が、上越のお茶を売るために上越らしさが必要だということで、雪室貯蔵食品として販売している。上越という雪国のイメージを利用して、商品を売るということだと思う。

雪室推進プロジェクトは、今年で何年目になるか。

【平原委員】

3年目か。

【水澤会長】

2015年12月と記載されているので、3年目か。このように、そのお茶専門

店が中心になり食品関係者に声をかけている。雪室は昔からあるのだが、若い発想で形を変えて今までにないようなことをしている。

われわれ委員も、時間をかけてでも雪をテーマに議論し、釜蓋遺跡公園に雪をかためて市へ提案することも一つ。

【前川委員】

和田区地域協議会が雪を生かした地域づくりを進めるなら、地域の活性化やイベントに生かしたい。その場合は、地域の各種団体と意見交換をしていく中でできることを話し合い、それができるなら地域協議会として進めていこうという方向かと思っている。

【水澤会長】

これまでイベントについての意見、個人住宅の雪冷房についての意見が出た。安塚の他に雪利用の先進地視察できる場所はあるか。

【植木委員】

県内の山間地は気温も低く雪も多いが、市内の平場では岩の原葡萄園の雪室があり、そこは和田と標高が変わらないので、そちらの状況に興味がある。平場で取り組む場合のメリットがあるのではないかと感じた。

【水澤会長】

雪をどこから運び込むかなど、いろいろ見聞きできたら勉強になると思う。新聞にもいろいろなことが書かれているので、勉強し次回会議で意見を。

—自主的審議事項 住民組織の充実と地域活性化について—

【水澤会長】

次第4議題(2)「自主的審議事項 住民組織の充実と地域活性化について」については、先ほど諮ったとおり「雪を生かした地域づくりの推進について」の審議を終えてからとする。

—事務連絡—

【水澤会長】

事務局に事務連絡を求める。

【佐藤センター長】

・ 次回協議会：11月9日（木）午後6時30分 ラーバンセンター

・ 配布資料

各地域協議会の意見書写し 4件

平成28年度上越市地域活動支援事業事例集

ニュースレター「創造行政」

ウィズじょうえつからのおたより

・ 南部まちづくりセンター移転に伴い名刺配布

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。